

平成 28 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

DATE : 平成 28 年 6 月 23 日

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	渡邊 克昭
専門分野 Academic Field	アメリカ文学・文化

平成 28 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2016 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学				
<p>研究計画 (400 字～500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)</p> <p>本研究では、グローバル化した日常において加速度的に浸透するエンハンスメントへのヴィジョンが、多様な領域を巻き込みつつ、いかに交錯する情動を発動するか、「幸福の追求」の未来学との関係において、その生成のダイナミズムを丁寧に解きほぐしていきたい。本年度は、昨年度の共時的観点を踏まえ、通時的観点から本テーマのヴィジョンを多様なメディア表象の分析を通じて抽出するとともに、1) 遺伝子操作など生命のデザイン、2) 薬物など精神のデザイン、3) 人口知能など頭脳のデザイン、4) 人体改造など身体デザインの4つの問題系のうち、エイジングと生命のデザインに特に焦点を絞って研究を進める。</p> <p>その際、本年5月に上梓されたドン・デリーロの新作、<i>Zero K</i> に注目し、人体冷凍保存技術と不死が複雑に織りなす多様な問題系を、ヒューマン・エンハンスメントという文脈を意識しつつ綿密に考察する予定。デリーロ文学全体の見取り図も視野に入れ、未来志向の見果てぬ不死への願望と、一見平凡に見える現在の日常への拘りがいかに絡み合い、濃密なテクスチャーを織りなすか、不死をめぐる本作が投げかける問いかけに、昨今顕在化する「保守化」という視座から向き合ってみたい。それとともに、不老・不死が、「幸福」との関係においていかに表象されてきたか、オリエンタルな視座も交えつつ学際的に検証を試みる。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	英米・英語圏 文学	ヨーロッパ文学	思想史	文学一般	芸術史
キーワード Keywords*2	ヒューマン・エンハンスメント	アメリカ文学	幸福の追求	進化	死